

## 長く働き続けた女性のキャリア形成

### 1. 目的

10年以上、正規雇用で就業継続している女性にインタビュー調査を行い、世界的に見てもジェンダー平等がまだ達成されていない日本において、10年以上もの長期に渡り正規雇用として就業を継続できた理由と、これまでの努力や背景、何に影響されたのかを明らかにしたい。そして、働く女性たちの職業的キャリアの在り方だけではなく、多様なライフコースの実現に繋がるキャリアを築いていくための有効な方策を提言したいと考えている。

### 2. 調査の手続き

- ・インタビューガイドに則って、半構造化インタビューを行う
- ・調査対象：10年以上、正規雇用で就業継続している30～40歳代の女性8名
- ・調査期間：2020年6月1日～2020年12月31日
- ・調査対象：
  - Aさん、48歳（歯科医院 医療事務）
  - Bさん、31歳（子ども服のアパレル会社 販売職）
  - Cさん、36歳（損害保険会社 総合職）
  - Dさん、47歳（化粧品会社 販売職、銀行 営業職）
  - Eさん、44歳（旅行会社 営業職、総合商社 社会福祉士・臨床心理士）
  - Fさん、42歳（陸上自衛隊 広報官）
  - Gさん、47歳（自動車コールセンター会社 オペレーター）
  - Hさん、57歳（生命保険会社 一般職、専業主婦）
  - Iさん、32歳（警察庁 警察官）

### 4. 結果の要約

第一に、働き続けたいという意志は「働き続けたい意志」と「働き続けなければいけない意志」の2種類存在することがわかった。結婚や出産、離婚は、「働き続けなければならない理由」に強い影響を与えていた。第二に、面倒見の良い上司という存在が重要なことはもちろん就業継続に影響するが、ロールモデルは、仕事とプライベートであえて区別している女性がいた。第三に、リーダーシップが発揮できる職場よりも、正しい評価をされることが大切だということだ。リーダーシップには向き不向きがあるためである。

### 5. 研究の課題

今回の調査での一番の課題は、調査対象者は色々なパターンを想定して探すべきだったということだ。

専業主婦の人を他にも探すことができれば、仕事を辞めた理由に説得力のある結果が出ただろう。また、今回は10年以上就業継続している人のみを調査対象者にしていたが、専業主婦を始め、無職の人や非正規雇用の人と比較することで、新たな見解が広がったかもしれない。

新型コロナウイルスの影響で、調査対象者を探すことが難しく、スノーボールサンプリングで増やしていったため、金融関係で勤務する人が多くなってしまった。ただ、公務員2名を加えられたことは、評価できる点だっただろう。